

○清家座長 ただいまから、「第12回全世代型社会保障構築会議」を開催いたします。

本日は報告書の取りまとめを議題といたします。その後、全世代型社会保障構築本部の開催に移る進行となっております。

それでは、構成員の皆様へ報告書の最終版の取りまとめについて御報告を申し上げます。

報告書の文言につきましては、先日の会議において私に御一任賜ったところでございます。その後、皆様の御意見を踏まえ、配付資料のとおりに取りまとめさせていただきましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の全世代型社会保障構築会議は以上といたしまして、ここから全世代型社会保障構築本部に移ることといたします。

大臣、よろしくお願いいたします。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、ただいまから、「第5回全世代型社会保障構築本部」を開催いたします。

本日は、全世代型社会保障構築会議報告書について、清家座長からその概要をご報告いただいた後、構成員の皆様から一言ずつご発言を頂きたいと思っております。

それでは、清家座長、よろしくお願いいたします。

○清家座長 全世代型社会保障構築会議において取りまとめました「報告書」について、その概要を御説明いたします。

まず「Ⅱ. 全世代型社会保障の基本的考え方」の「1. 目指すべき社会の将来方向」につきましては、全世代型社会保障の構築を通じて、目指すべき社会の将来方向として、「少子化・人口減少」の流れを変える。これからも続く「超高齢社会」に備える。「地域の支え合い」を強めるの3点を挙げております。

次に「2. 全世代型社会保障の基本理念」として、「将来世代」の安心を保障する、能力に応じて全世代が支え合う、個人の幸福とともに、社会全体を幸福にする、制度を支える人材やサービス提供体制を重視する、社会保障のDX（デジタルトランスフォーメーション）に積極的に取り組むの5点を挙げております。

また「3. 各分野における改革の方向性」のうち「こども・子育て支援の充実」については、少子化の危機的な状況から脱却するためのさらなる対策が求められており、特に現行制度で手薄な0～2歳児の支援が重要との認識の下、妊娠・出産・子育てを通じた切れ目ない包括的支援を早急に構築すべきであります。併せて、恒久的な施策には恒久的な財源が必要であり、支援策のさらなる具体化と併せて検討すべきであります。

「働き方に中立的な社会保障制度等の構築」については、働き方が多様化する中、どのような働き方をしても、誰もが安心して希望どおりに働くことができる社会保障制度等の構築が求められています。また、少子化対策の観点からも、非正規雇用労働者を取り巻く

課題の解決などの環境整備が重要です。

「医療・介護制度の改革」については、後期高齢者割合の急激な上昇を見据え、負担能力に応じて、全ての世代で、公平に支え合う仕組みを早急に構築する必要があります。併せて、医療の機能分化と連携の更なる推進、医療・介護人材の確保・育成や医療・介護サービス提供体制の改革等を進めていく必要があります。

「地域共生社会」の実現については、今後、更なる増加が見込まれる独居高齢者や孤独・孤立、生活困窮の問題に直面する方々を社会全体で支えていくことが重要です。中でも、住まいについては生活の基盤であるため、その確保を社会保障の重要な課題として位置付け、必要な施策を本格的に展開することが必要です。

こうした各種の課題について、「地域軸」も意識しながら「時間軸」を持って計画的に取組を進めていく必要があります。項目ごとに「今後の改革の工程」をお示ししております。

本報告書では、これまで12回にわたって開催してまいりました会議での議論を取りまとめたものであり、政府におかれましては、この内容に基づき、全世代型社会保障の構築に向けて、着実に取組を進めることとしていただければと存じます。

以上でございます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

私も大臣就任以来、毎回会議に出席し、構成員の皆様のご議論を拝聴させていただきました。今後につながる報告書をまとめていただきましたこと、私からも心から御礼申し上げます。

それでは、構成員の皆様から、順次、一言ずつお願いいたします。

私から指名させていただきます。増田座長代理、お願い申し上げます。

○増田座長代理 4月からこども家庭庁がスタートします。そうしますと、厚労省は高齢者向けと雇用の政策を担当する、そして、こども部門はこども家庭庁という形になります。

この全世代型社会保障のコンセプトというのは、年齢にかかわらず負担をし、必要に応じて給付をするという考え方でございまして、縦割りにならずに、こども向けと高齢者向けと雇用政策一体として答えを出していくことが重要になりますので、当会議の役割がそういう意味ではますます大事になると思いますので、年明けも当会議での集中した議論をぜひお願いしたいと思います。

あと、私が座長をしております公的価格評価検討委員会で費用の見える化について議論しまして、参考資料の1のとおり整理をいたしましたので、これを踏まえて見える化の取組が一層進められるよう期待をしております。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 秋田構成員、よろしく申し上げます。

○秋田構成員 学習院大学の秋田です。全世代で将来世代であるこども・子育て、若者世代を支えていくという理念が明確に出された報告はとても有意義な、これからの未来の日本の社会への希望を与えるものと考えます。ただし、その実現のためには、恒久的な財源

の確保、また、この理念を国民一般に、全世代に対して教育や周知をしていくといった社会保障の教育が重要であります。そして、0～2歳以降の、今後、現金だけではなく現物給付の充実が重要になってくると思います。年明け、こども・子育て重点領域の検討を強く望むものであります。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 落合構成員、よろしくお願いします。

○落合構成員 税と社会保障と就労の一体改革、プッシュ型の給付型制度、そして、こどもの就学と健康のサポート、かかりつけ医等のGPの問題、EBPM、全てがデジタル化とマイナンバーとデータ空間の整備に本丸があると私は考えています。

その上で、来年2023年は国が管理するデータ、民間団体のデータ、ブロックチェーンなど第3の個人のデータといったデータの役割の統合が盛んに行われる、いわばデジタルヒューマン社会の構築元年となると私は思っています。その上で、本会議で話し合われたデータ環境の整備が2025年問題の顕在する万国博覧会の頃には完了することになっています。そして、新しいデジタル日本の社会保障、産業のエコシステム、データ空間をデジタル基盤の上に成立させることが産学官の連携においてはすごい重要なので、そういったことをここにいる皆様を含め、力を合わせてやっていきたいと思っておりますので頑張っていきたいと思います。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 笠木構成員、よろしくお願いします。

○笠木構成員 初回の会議におきまして、社会保障が個人のニーズに応えるものであると同時に、個人のライフスタイルに大きな影響を及ぼすものであること、また、このこととも関連して、将来世代に提案できるような未来志向の社会保障の体系を考えるべきと申し上げました。今回の報告書では、あらゆる世代の人がその能力に応じて、多様な人を包摂する社会の構築に参加し、将来世代に引き継いでいく、というメッセージが示されているものと考えます。具体的な政策提言が来年以降、現実の政策として実現されていくこと、また、報告書が提起している重要な理論的論点について、さらに本格的に議論が深められていくことを強く期待いたします次第です。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 次に香取構成員、よろしくお願いします。

○香取構成員 この報告書の取りまとめに際しまして御尽力いただきました清家座長と、事務局の皆様方に御礼を申し上げます。

全体会議、テーマ別検討での議論を通じて、様々な御意見を申し上げてきておりますので、改めて申し上げることはございません。各分野の改革の方向性については、この方向性で進めていただきたいと思います。

1点だけ、医療介護提供体制のところにかかりつけ医に関する制度整備の議論がございましたが、かかりつけ医機能は医療提供体制全体の中で議論すべき課題ということですので、来年、制度改正が予定されておりますけれども、それは改革の第一歩ということだ

と思いますので、かかりつけ医が実際に機能していけるような各般の制度整備について、医療情報ネットワークや診療報酬・介護報酬の体系的見直しも含めて並行して議論して進めていただきたいと思います。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 菊池構成員、よろしくお願いします。

○菊池構成員 充実したおまとめをいただきましてありがとうございました。

この会議での議論は、決して世代間対立をあおるものではなく、能力に応じた負担という方向性を共有しながら全ての世代の国民が支え合い、社会保障制度から受益できる社会を目指したものです。また、地域共生社会の議論に象徴されますように、社会保障制度を支える市民的な基盤の再構築を目指したものでもあります。政府におかれましては、こうした全体像についての広報に努めていただきたく、さらに報道関係の皆様にも、ぜひこうした全体像を国民の皆様にお伝えいただけるよう切にお願いしたいと思います。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 熊谷構成員、よろしくお願いします。

○熊谷構成員 熊谷でございます。この会議で、私は若い世代を中心とする正規・非正規の格差という雇用問題の解決こそが最大の少子化対策であり最大の成長戦略であると再三申し上げてきました。30代で結婚している方が正規は6割、非正規は2割という状態を放置したままでは少子化に歯止めはかかりません。本日の報告書にも、そうした議論の手がかりを盛り込んでいただきました。

防衛の議論は本日で一区切りかと存じます。今後は雇用政策、少子化対策、成長戦略を一体的に議論することが不可欠であり、各省庁の縦割りを排して、全世代型社会保障の会議で引き続き議論の進展をお願いいたします。

ありがとうございます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 権丈構成員、よろしくお願いします。

○権丈構成員 2月に自民党のある会議で、勤労者皆保険、かかりつけ医の話をしめすと、終わった後に1人の先生が、おっしゃることはそのとおりののですが、それって我々に支持基盤と戦えという話ですよねということになって、今のようにみんな大笑いになったわけですけども、そこにいた長老の先生が、我々も変わらなくてはいけないということだよとおっしゃられて、非常に面白い会議でした。

今回は、総理が勤労者皆保険をやる、かかりつけ医機能が発揮できる制度整備をやると錦の御旗をしっかりと掲げてくださったので、善と悪とか、正と邪がはっきりしました。先日亡くなった水木一郎さんの歌で我々世代は育ったようなものなのですけども、マジンガーZの「Zのテーマ」にある、「幸せ求めて悪を討つ」という議論を存分に行うことができました。これは本当に総理が旗幟鮮明であったおかげで、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 国土構成員、よろしくお願いします。

○国土構成員 これまでの議論を踏まえたすばらしい報告書になっていると思います。短時間で取りまとめいただきました後藤大臣、清家座長、事務局に深謝いたします。

かかりつけ医機能の制度化と医療DX改革の早期実装化がしっかり書き込まれており、画期的な提言になっていると思います。かかりつけ医機能の制度の細部を詰める中で、関係者や患者の意見を踏まえて国民のためになることはもちろんですが、医療者にとってもプラスとなる制度にしていくことを期待いたします。また、医療DX改革を医療技術の開発や創薬に有効活用することも重要です。患者目線、国民目線からも医療データを匿名化し、一定のルールの上で、アカデミアだけでなく企業が創薬のために活用できるメッセージを出すことができれば良いと思います。ありがとうございます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 高久構成員、よろしく申し上げます。

○高久構成員 格調高く全世代型社会保障の理念と当面の政策課題についてまとめていただいた清家座長並びに関係者の皆様に大きな感謝を申し上げます。

今後の人口動態を考えますと、今回の報告書では時間軸と地域軸という2点が明記されている点は非常に重要だと思います。かかりつけ医に関する記載も第一歩として大まかになされているところですが、提供体制の在り方は地域で大きく異なり、ここで記載された大枠を各地域の実情を十分に反映できるものに時間軸を持って落とし込んでいくためには、さらなる議論が欠かせないと思います。引き続きこの会議でのフォローアップは欠かせないと考えております。ありがとうございます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 武田構成員、よろしく申し上げます。

○武田構成員 このたび、全世代型社会保障の基本的考え方や改革の方向性が示されたことは大きな成果と存じます。大臣、座長のリーダーシップと関係者の御尽力に敬意を表したいと思います。

超高齢化社会が目の前に見えている中で、社会保障を今後の経済社会の重荷にしないこと、未来へのツケとしないことは極めて重要と思います。今後も給付と負担の適切なバランスを実現する改革を、そしてそのために見える化を実現していく必要があると思います。将来不安の緩和は岸田政権が掲げる成長と分配の好循環に不可欠です。この全世代型社会保障の構築によって初めて、高齢者、現役世代、こどもたち、そして、将来世代まで含めた国民が安心して暮らせる国になると信じています。

以上です。ありがとうございます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 田辺構成員、よろしく申し上げます。

○田辺構成員 医療保険制度の見直しにつきましては、極めて具体的な方向性を報告書に記していただきました。また、これを受けまして、関連する審議会等におきましても成案を得たところでございます。年明けの国会におきまして、法改正につながるよう御尽力いただければと存じます。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 土居構成員、よろしく申し上げます。

○土居構成員 土居でございます。本日は、オンラインで出席させていただくことをお許しいただきありがとうございます。

全世代型社会保障構築会議の報告書を岸田総理はじめ、本部において報告させていただくことができましたことを大変喜ばしく思っております。来年度は、特に診療報酬改定・介護報酬改定に向けた医療・介護の議論が大詰めを迎える年ということになります。その意味では、国民に対して医療や介護において保険料をはじめとする負担増を同時にお願いしなければならないという6年に1度の大事な年ということになります。何かと負担増という話が国民にとっては耳の痛いことではありますが、それが医療と介護を同時に話ししなければならないという宿命的な年になります。ですからこそ、なおさら社会保障の改革をして負担に見合っただけの便益が社会保障によって国民にもたらされるというところをしっかりと説明していくことを通じて、この構築会議もますます社会保障改革について、来年、いろいろとフォローアップをさせていただく機会をいただきたいと思っております。ありがとうございました。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 富山構成員、よろしくお願ひします。

○富山構成員 私は以前、岸田総理に来ていただいた日本取締役協会の会長とかをやっています、要するに経済人の立場で財界人の立場です。さっきの権丈さんの言葉を借りると、要するに中立化であるとか包摂性を高めるということは、ひょっとすると、私も自分の仲間と戦わなくてはいけない部分が出てくると思っていますので、これはスピーディーにやらなくてはいけないので、来年以降も全力で協力したいので、よろしくお願ひします。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 水島構成員、よろしくお願ひします。

○水島構成員 報告書のⅡは社会保障の基軸を示したものと見え、社会保障の拠り所として中長期的な指針になるものとも考えます。将来方向として少子化・人口減少の流れを変えることが力強く述べられ、社会問題であり経済問題であることを示したことが重要です。

仕事と子育ての両立支援について一言申し上げます。この問題は労働法制や労使の取組だけでは限界があり、労働法と社会保障法が両輪となり支えることで実現するものと考えます。今回、労働法、社会保障法の双方に配意した内容となり、実のある両立支援のなることを強く期待します。ありがとうございました。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 横山構成員、よろしくお願ひします。

○横山構成員 本日、報告書が無事にまとめられ、座長をはじめ、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。労働抑制が多く存在したこれまでの制度から様々な閾値がなくなっていく、まさに中立的な働き方に向かって議論が早急に進んでいったことは、個人的にも大きな評価に値することだと感じております。様々な分野の専門家の先生や関係者の方が日々身を粉にしてより良い政策を追求しているのはもちろんのこと、全ての経済主体の利害を考慮した丁寧な議論が行われ、確実に良い方向に進んでいると思っております。にもかかわらず、幾つかのメディアから「先送り」という言葉や「負担増」といったネガティブな言葉だけが目立つ報じられ方がしていることは残念でなりません。既に様々な可能性

を考慮した議論が進んでおりますこと、また、トピックによっては慎重な議論が必要となり、早く結果が出されることのみが最善ではないことをメディアの方も国民の方にも御理解いただきたく思っております。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 どうもありがとうございました。

それでは、ご出席の関係閣僚の皆様から、ご発言を頂きたいと思います。

まず、松本総務大臣、よろしく申し上げます。

○松本総務大臣 重ねて構成員の皆様方の熱心な御議論・お取りまとめに心から感謝と敬意を表したいと存じます。

御案内のとおり、こども・子育て支援、医療・介護等の社会保障の多くは住民に身近な地方自治体を通じて提供されておまして、地方が現場として果たす役割は大変大きいと考えております。

このため、全世代型社会保障の構築に当たっては、国と地方が協力して取り組んでいくことが大切でございまして、総務省としても地方の意見や実情を十分に踏まえて連携しつつ、関係府省とも連携しながら取り組んでまいりたいと存じます。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 次に、鈴木財務大臣、よろしく申し上げます。

○鈴木財務大臣 私からも構成員の先生方に、9月から熱心に御議論をいただきましたことに感謝を申し上げます。

取りまとめを踏まえまして、まず来年の通常国会に医療制度の関連法案を提出し、そして、来年末の医療・介護報酬改定に向けて、各制度の給付と負担の在り方について議論を進めていく必要があります。

また、少子化対策については、年明け以降、この報告書にあるように、将来的なこども予算倍増を目指していく上での当面の道筋を示すとともに、同時に、安定的な財源について、企業を含め社会全体で連帯し、公平な立場で広く負担し、支える仕組みの検討を行うことが大きなテーマになると思っております。

本日、お集まりの先生方のお知恵も拝借をしながら、来年の骨太の方針に向けて議論を進めていく必要がありますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 次に、伊佐厚生労働副大臣、よろしく申し上げます。

○伊佐厚生労働副大臣 熱心な御議論に感謝を申し上げます。厚生労働省としても報告書の内容に基づきまして、医療介護制度改革をはじめ、しっかりと進めてまいります。

また、総理から御指示をいただきました介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージの案については、資料2のとおり、介護現場革新のためのワンストップ窓口を設置し、また、介護ロボット、ICT機器の導入等に関して伴走支援を進めてまいります。

また、優れた取組を行っていただいております事業者・職員を総理に表彰していただく

など、好事例の展開も進めてまいります。

このほか、関係省庁とも連携しながら、介護現場で働く方が自信と誇りを持って働くことができる環境づくりを進めてまいります。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 次に、小倉内閣府特命担当大臣、よろしくお願ひします。

○小倉内閣府特命担当大臣 こども政策・少子化対策は、岸田政権の掲げる「成長と分配の好循環」を実現する上での中核であると考えます。こどもや若者、子育て世代への支援を「未来への投資」として進めていくことが必要です。構成員の皆様方には、こども・子育て支援策、少子化対策の重要性に言及をしていただきましたこと、感謝を申し上げます。

私どもといたしましてもこどもや若者、子育て当事者などの声に耳を傾けながら、岸田総理のリーダーシップの下で、来年度の「骨太の方針」でこども予算の倍増を目指す上での当面の道筋を示すとともに、来年秋頃を目途にこども政策・少子化対策を総合的に推進するための「こども大綱」を策定してまいります。

以上です。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 皆様、ありがとうございました。

それでは、会議でまとめていただきました報告書に基づき、全世代型社会保障の構築に向けた取組を、今後、政府として着実に進めていくことについて、資料1のとおり本部決定することにつきまして、ご了承いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、ここでプレスが入室します。

(報道関係者入室)

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 それでは、総理から締めくくり発言を頂きます。

○岸田内閣総理大臣 全世代型社会保障の構築については、私から本年9月に、議論を進め御報告をいただくようお願いをしたところ、清家座長を始め、全世代型社会保障構築会議の構成員の皆様において、今般報告書を取りまとめていただきました。誠にありがとうございました。政府としては、本報告書に基づき、改革を進めてまいりたいと考えております。

特に、「こども・子育て支援の充実」については、御報告いただいた内容を含め、今後こども家庭庁の下で、こどもの視点に立って、必要なこども政策が何かをしっかりと議論した上で、体系的に取りまとめ、社会全体での費用負担の在り方の検討とあわせ、取り組んでいく必要があります。その上で、来年度の「骨太の方針」には、こども予算の倍増を目指していくための当面の道筋を示してまいります。

さらに、足元の課題として掲げられた医療保険制度や医療制度の課題については、次期通常国会に向けて、厚生労働省において速やかに法案作成作業を進めるよう、お願いいた



します。

また、本日報告のあった「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」については、総理表彰を含めて、これに基づき、取組を進めていただきたいと思います。

人口減少の流れを変え、超高齢社会に備えるため、足元の課題とともに、中長期的な課題について、時間軸と地域軸を持ち、全世代で支え合い、人口減少・超高齢社会の課題を克服するための取組を着実に進めるよう、各大臣においてはしっかりと御対応をお願いいたします。

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 ありがとうございます。

(報道関係者退室)

○後藤全世代型社会保障改革担当大臣 以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございます。